

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた 実態調査（アンケート）概要

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）概要

➤ 目的

花き流通標準化ガイドラインの検討に当たり、パレット、台車、外装サイズ（箱）、コード・情報等（情報伝達）の4つの項目に関する実態調査（アンケート）を全国の農協に対して実施。

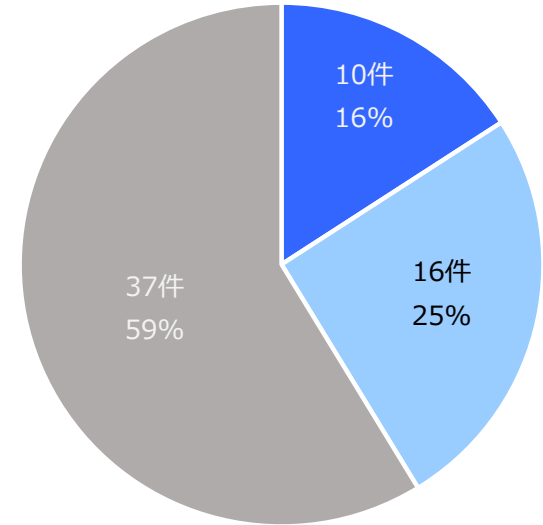
➤ 調査方法

- 調査期間 令和4年12月23日（金）～令和5年1月9日（日）
- 回答数 64件

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（1）

Q1 現在、花きの輸送にパレットを導入していますか。

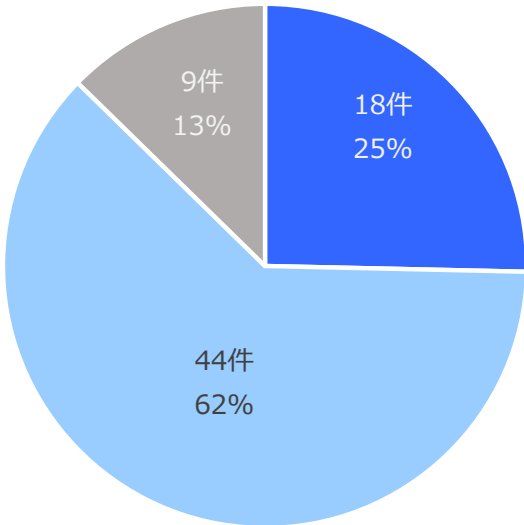
導入している	10件
一部使用している	16件
使用していない	37件



■ 導入している ■ 一部使用している ■ 使用していない

Q2 パレットの素材はどれが好ましいですか。（複数選択可）

木製	18件
プラスチック製	44件
鉄製	0件
わからない	9件



■ 木製 ■ プラスチック製 ■ わからない

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（2）

Q3 パレットのサイズについて

- 現在の花き類の出荷規格（長さ）が80センチ前後であるため出荷容器のサイズ調整が難しい。
- 枝物用出荷ダンボールは、長さ1,150mm・1,250mmが中心、一番大きい物で1,500mmのダンボールがあり、パレットからはみ出してしまうなど、品目によってはそのパレットでは対応できない品目もある。
- 4 t 車に左右から2枚入るのであれば良いと思う
- 箱のサイズが産地・品目によってバラバラであるため、品目別に標準的な積み付けパターンと箱サイズを整理する必要がある。

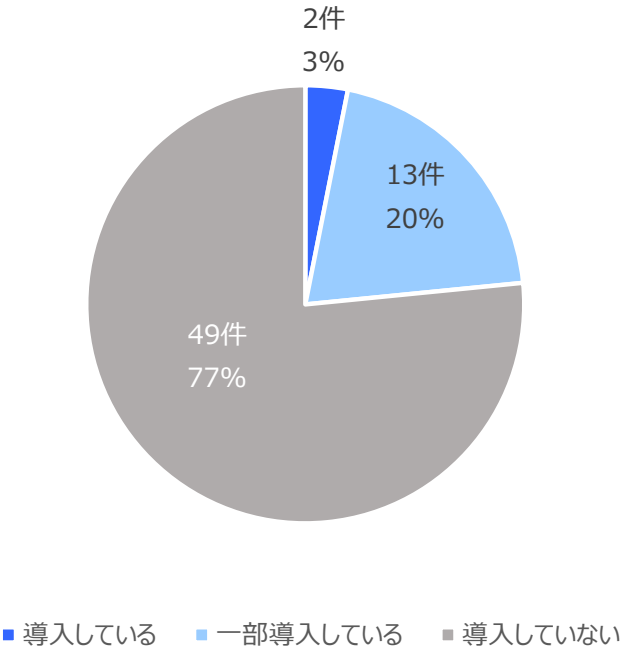
Q4 パレットに関して、導入上の利点や問題点、導入できない理由などを教えてください。

- 積み降ろし労力及び時間の削減につながる。
- 生産の少ない産地や、ロットの少ない市場への出荷は積載効率が落ちる。
- 経費削減で強度の弱い段ボールが多くなっているため積めない。
- 導入コストの問題。
- 管理、回収に費用が必要な気がして心配。
- 縦箱の場合積載量が減る。
- 箱の統一化や運送会社との仕組みの導入も必要。

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（3）

Q5 現在、花きの輸送に台車を導入していますか。

導入している	2件
一部使用している	13件
使用していない	49件



花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（４）

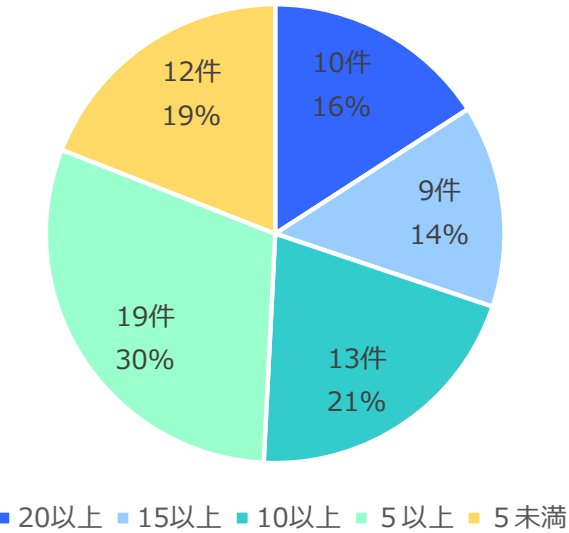
Q6 台車に関して、導入上の利点や問題点、導入できない理由などを教えてください。

- 鉢物やELFバケットを使用するには積み降ろしの労力削減と時間短縮につながる。
- 積載効率が落ちる。
- 導入コストはどうするのか。
- 他青果物と積み合わせの場合が多いため難しい。
- 管理はどうするのか。
- 冷蔵庫から移動する際、床がフラットでないと移動しづらい。

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（5）

（Q7） 花きの輸送に使用する箱の種類は何種類ありますか。

20以上	10件
15以上	9件
10以上	13件
5 以上	19件
5 未満	12件



花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（6）

Q8 箱詰めの際、工夫されていることを教えてください。

- ものによっては頭の位置をずらして入れる。花痛み軽減のためにスリーブだけでなく新聞紙やキッチンペーパーを使用している。
- 花の頭を互い違いに置いている。
- 花と箱が当たらないように固定している。
- なるべくたくさん入れるようにし中締めや新聞紙の使用を減らしている。

Q9 箱の大きさについて案がでていますが、ご意見があれば教えてください。

- 巾360ではラインが通らない。275では狭すぎる。高さ173は2段梱包が厳しい。大きさもそうだが材質も重要。
- 花木類は入らないのではないか。
- 統一されれば生産者にも説明しやすい。
- ボリュームに合わせてある程度高さの部分は幅を持たせたほうがよい。

Q10 箱の統一化に関する問題点やご意見を教えてください。

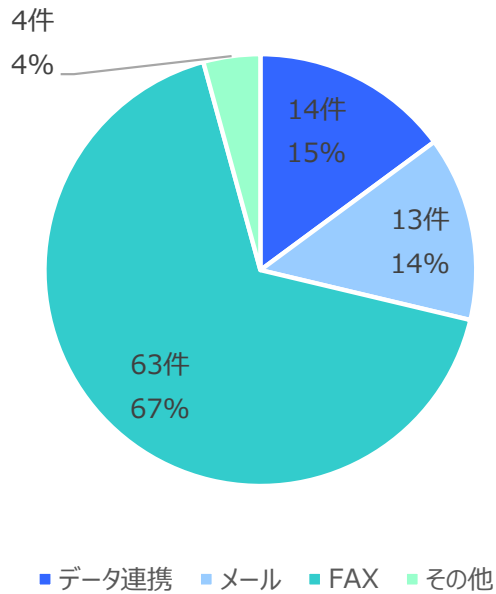
- 規格、入本数の多様化が心配。
- 箱で他産地との差別化を図っているので、生産者が納得できるような大きなメリットがほしい。
- 製造コストの大幅な削減が可能であるならば検討の余地がある。
- 箱サイズによって荷扱い手数料を取っている市場への出荷は負担が増えるのではないか。
- 出荷経費が増加しないか心配。
- 同じ品目でも産地によって花のボリュームが様々。どのように合わせるか検討が必要。
- 箱の統一化で大型規格を市場に要求されたときに応えられないのではないか。

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（7）

Q11 産地から市場への出荷情報伝達はどのように行っていますか。

（複数選択可）

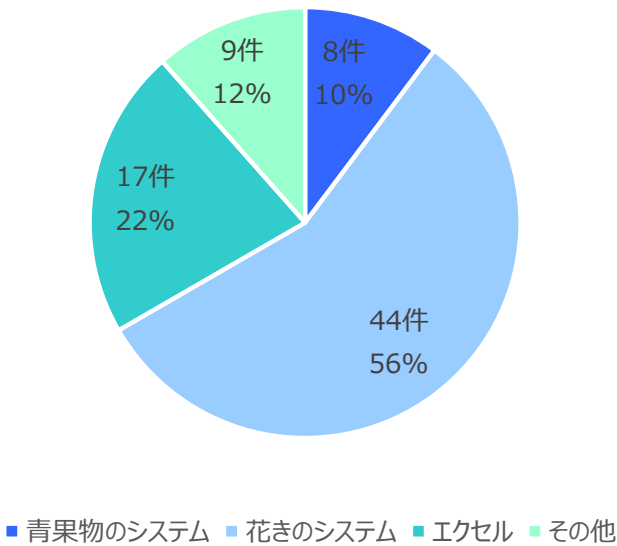
データ連携	14件
メール	13件
FAX	63件
その他	4件



Q12 出荷データ作成は何を使っていますか。

（複数選択可）

青果物のシステム	8件
花きのシステム	44件
エクセル	17件
その他	9件



花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（8）

Q13 情報伝達に関して、データ連携導入の利点や問題点、導入できない理由などを教えてください。

- 手作業で入力することによるヒューマンエラーや時間の削減が図れる
- 情報伝達が早まる
- FAXの送付もれや機械トラブルがなくなる
- システムの導入コストとセキュリティ対策コストが問題
- 新しい品種への対応をどうするのか
- 集荷施設にネット環境がない
- 今の生産量ではシステムのランニングコストを支払うのは厳しい

Q14 産地においてソースマーキングの仕組み（ラベル貼付等）を検討していますがどうすれば行えるのかご意見を教えてください。

- バーコードラベルを生産者でつける習慣があるので、バーコードの統一化やシステム導入コストを助成してもらえれば。
- 人員を確保する案があれば。
- 手数料をもらえれば。ただしどこから徴収するのかを考えなければならない。
- 花きだけではなく園芸・果樹・市場を含めた統一システムがあれば。

花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査（アンケート）詳細（9）

Q15 パレット、台車、箱、情報伝達の導入に関して、紹介できる事例があれば教えてください。

- ・ 県域集出荷システムを開発し、出荷データをフロリスネットで市場へ発信し、市場からの売立データもシステムで照合するように導入をすすめている。品種コードはJAによってバラバラなため、照合キーとして送り状の行番号を考えている。将来的にはJFコードを活用したい。

Q16 パレット、台車、箱、情報伝達以外で、物流に関する問題があれば教えてください。

- ・ 人手不足、施設の老朽化。
- ・ 輸送コストの上昇。
- ・ 生産量の減少により運送会社が引き取りにきてくれなくなり、最終的には出荷ができなくなる可能性が高い。
- ・ 日本郵便などの既存の配送網を活用するなど、産地ごとではなく農産物輸送という大枠で考えていくべき。
- ・ 県内でも使っている物流会社がばらばら。まとめれるところはまとめたいがその方向性を打ち出せる人間（組織）がない。
- ・ 小規模産地の実態を踏まえて様々なことを検討していただきたい。